

「敵基地攻撃と日米一体化 ～防衛費倍増は国民負担に～」



講師：防衛ジャーナリスト(元東京新聞論説委員兼編集委員)

半田 滋 様

プロフィール

1955年(昭和30)年生まれ。防衛ジャーナリスト。下野新聞社を経て、91年中日新聞社入社、元東京新聞論説兼編集委員。獨協大学非常勤講師。法政大学兼任講師。海上保安庁政策アドバイザー。92年より防衛庁(省)取材を担当。2007年、東京新聞・中日新聞連載の「新防人考」で第13回平和・協同ジャーナリスト基金賞(大賞)を受賞。著書に、「台湾侵攻に巻き込まれる日本 安倍政治の『継承者』」、岸田首相の敵基地攻撃と防衛費倍増の真実(あけび書房)、「戦争と平和の船、ナッチャン」(講談社)、「変貌する日本の安全保障」(弓立社)、「安保法制下で進む!先制攻撃できる自衛隊—新防衛大綱・中期防がもたらすもの」(あけび書房)、「検証 自衛隊・南スーダンPKO—融解するシベリアン・コントロール」(岩波書店)、「零戦パイロットからの遺言—原田要が空から見た戦争」(講談社)、「日本は戦争をするのか—集团的自衛権と自衛隊」(岩波新書)、「僕たちの国の自衛隊に21の質問」(講談社)、「『戦地』派遣 変わる自衛隊」(岩波新書)＝09年度日本ジャーナリスト会議(JCJ)賞受賞、「自衛隊vs北朝鮮」(新潮新書)などがある。

今の政府は多くが上から目線で行っています。6月定額減税の評判の悪さ、「増税メガネ」との批判を気にして自らの政権浮揚と合わせ、しかも企業などに給与明細に減税額を明記するよう義務づけるなど、お上意識そのままの民主政治と程遠い政府です。

三権分立を破壊した安倍政権を継承する岸田政権は、一昨年12月「敵基地攻撃能力の保有」「防衛費倍増」を閣議決定しました。国会での議論を経ず「専守防衛」を逸脱した明確な憲法違反の閣議決定です。倍増される防衛費は敵基地攻撃ができる国産や米国製の長射程ミサイル購入に充てるため支出は税金や更なる国債発行を余儀なくされ現役世代から将来世代に繋がる膨大な負担増です。

4月の日米首脳会談で日米は指揮統制の連携強化を打ち出しました。戦争を止めるには武力ではありません。過去に我が国が近現代に関わった事や現在のウクライナや中東の現状を見ても明らかです。相手国の主張に耳を傾けつつ、日本の国益の最大化を図る外交努力こそが求められています。

講師からこれらの動きや平和外交の大切さを語っていただきます。皆様のご参加をお待ちしています。

日時 2024年7月22日(月) 午後6時開場 / 午後6時20分講演開始～午後8時終了

会場 ワークピア横浜 (横浜市中央区山下町24-1 ☎045-664-5252)
みなとみらい線日本大通り駅3番出口徒歩5分・地下鉄関内駅徒歩15分・JR関内駅南口徒歩15分・JR石川町駅北口徒歩13分

会費 1,000円(資料代) 学生無料

主催：一般社団法人勁草塾(代表理事 齋藤 勁)

後援：神奈川新聞社、東京新聞横浜支局、タウンニュース社(順不同)

協力：(公社)日本ジャーナリスト協会

*参加お申込みの方は下記迄Eメール又は、FAXをお願いします。先着100名様で締め切らせていただきます。

一般社団法人 勁草塾横浜事務局 e-mail : t-saitou.jimusho@zd.wakwak.com FAX 045-315-7540

勁草塾講演会(2024年7月22日)

出席()名 ・ 欠席

お名前

連絡先